

競進社模範蚕室の特徴

明治 27 年 (1894) に建築された競進社模範蚕室は、競進社社長木村九蔵が考案した新しい飼育法「一派温暖育」に適した構造を持っている。それまで日本各地の養蚕家たちが飼育法の研究を続け多くの養蚕書が刊行されてきた。それぞれ気候の異なる地域でのみ有効な養蚕書はあったが、全国各地で通用する飼育法を記した養蚕書はなかなか登場しなかった。そんな中、換気を重視し「ヤグラ」(高窓・天窓・気抜き)を設けた島村の田島弥平考案の「清涼育」は明治前期に普及した飼育法であった。また江戸時代より寒冷な東北地方で流行した炭火を用いた飼育法の「温暖育」も失敗のリスクを抱えながらも飼育日数を減らせる利点があり東北地方に広まった。これ以外にも多くの飼育法があったが広く普及することはなかった。そんな中、群馬県の高山長五郎と埼玉県の木村九蔵は清涼育と温暖育の長所と短所を研究し、長所を取り込み新たなる工夫を加えた「清温育」・「一派温暖育」という飼育法を考案した。この飼育法は火力を用いて湿度管理に重点を置く、いわゆる折衷育と呼ばれる飼育法で、日本各地での飼育に対応でき、広く普及することになる。その中で蚕を飼う「蚕室」の役割は極めて大きかった。

蚕室の構造上の重要な要素は、間取り・階数・屋根・廊下・建具・火炉・欄間・天井・気抜きである。

間取り・・・蚕室の規模にも関係し、部屋の配置如何で作業性や保温に影響する。

階数・・・平屋、二階、三階建てなどがあり、飼育数量・作業性・排湿に影響する。

屋根・・・茅葺き・板葺き・瓦葺きなどがあり保温面に影響を与えるが、換気などの工夫で補える。

費用や防火面にも影響する。

廊下・・・保温に影響し、配置の仕方により遮光や作業性にも影響がある。

建具・・・雨戸・障子などは保温・採光・換気に影響する。

火炉・・・保温・保湿・排湿・換気に影響し、防疫や作業日数に影響する。

欄間・・・換気・採光に影響する。

天井・・・換気に影響する。

気抜き・・・高窓(ヤグラ・天窓)の設置で排湿・換気・保温に影響する。

競進社模範蚕室は以上のような蚕室の要素を全ての面で配慮し工夫した構造を持つ優れた蚕室で、さらに廊下は東西南北一周させ、東西各 2ヶ所の出入り口を設けるなど作業性の向上にも配慮している。また、建具の障子も南北の廊下と室内の仕切りは二重障子にし保温面でも気配りしている。ほかにも床下を固く突き固めて室内に湿気が入らないよう工夫している。

競進社模範蚕室は建築当初より「模範蚕室」と呼ばれていたわけではなく、優れた構造を持つことから、いつしか「模範蚕室」と呼ばれるようになったのである。



中二階



障子



廊下



煉瓦積みの炉



室内より見た炉



床下の吸気口



小間返し天井



気抜き(高窓・ヤグラ・天窓)



大きくとった欄間



hanipon